

2014年4月22日

図化名人 GE2/SA2 リリースノート

アジア航測株式会社

更新内容

1. プロジェクト管理(GE2)
  - ・ 2Gbyte 以上の TIFF 画像と、BigTIFF 画像の読込に対応しました
  - ・
2. 標定解析(GE2)
  - ・ 2Gbyte 以上の TIFF 画像と、BigTIFF 画像の読込に対応しました
  - ・
3. 自動 DEM 計測(GE2)
  - ・ 2Gbyte 以上の TIFF 画像と、BigTIFF 画像の読込に対応しました
  - ・
4. 数値図化・編集(GE2/SA2)
  - ・ 2Gbyte 以上の TIFF 画像と、BigTIFF 画像の読込に対応しました
  - ・ Shp ファイルの読込と書き込みに対応しました
  - ・ 簡易属性編集機能を追加しました (Shp ファイルのみ)
  - ・ 属性検索機能を追加しました (Shp ファイルのみ)
  - ・ 全モデルで共通の参照ファイル設定を使用する機能を追加しました
  - ・
5. オルソフォト作成(GE2/SA2)
  - ・ 2Gbyte 以上の TIFF 画像と、BigTIFF 画像の読込に対応しました
  - ・ DWG/DM/GEF/SHP ファイルの読込に対応しました
  - ・
6. 標定解析(SA2)
  - ・ 2Gbyte 以上の TIFF 画像と、BigTIFF 画像の読込に対応しました

以上

2014年4月22日

図化名人 GE ServiceRelease 2 }  
図化名人 SA ServiceRelease 2 } (DGN版) からの変更点

アジア航測株式会社

## 1. カテゴリーテーブルはレイヤーテーブルに変わりました

### 1.1. レイヤーテーブルとは

- ・ 従来のカテゴリーテーブル (CategoryTable.txt 等) に代わるもので、図化名人で使用するレイヤー (カテゴリー、図化項目) を定義するファイルです。
- ・ レイヤーテーブルファイルのファイル名は固定です。プロジェクトフォルダの下の Parameter フォルダ内に LayerTable.xml として置かれます。
- ・ レイヤー (カテゴリー、図化項目) と DGN V7 ファイルの要素との対応付けを行うためには、別途マッピングファイルが必要になりました。マッピングファイルは簡単なテキストファイルのため、テキストエディタ等で編集して作成することができます。DGN(V7)用レイヤーマッピングファイル出力ツールを使用すると、従来のカテゴリーテーブルから自動的にレイヤーへのマッピングファイルを作成することができます。

### 1.2. カテゴリーテーブルからレイヤーテーブルの変換

- ・ [レイヤーテーブル移行ツール]を使用すると、カテゴリーテーブルファイルをレイヤーテーブルファイルに変換することができます。レイヤーテーブル移行ツールは、スタートメニューの[図化名人 GE2]-[移行ツール]から起動することができます。
- ・ レイヤーテーブルを持たないプロジェクトを数値図化・編集で開くと、自動的にレイヤーテーブルに変換されます。(但し、カテゴリーテーブルファイルは削除されないため、変換したプロジェクトを、再度、図化名人 GE ServiceRelease 2、図化名人 SA ServiceRelease 2 (DGN版) で開くことはできません。)

### 1.3. レイヤーテーブルの作成と編集

- ・ レイヤーテーブルを新規に作成するには、レイヤーテーブル編集ツールを使用します。レイヤーテーブル編集ツールは、スタートメニューの[図化名人 GE2]-[移行ツール]から起動することができます。

### 1.4. レイヤーテーブルファイルのテンプレート

- ・ プロジェクト管理アプリケーションで新規プロジェクト作成時に選択できるレイヤーテーブルは、[C:\ProgramData\AAS\ZukaMeijin\GPDigitizer]に置かれています。

## 2. DGN V7 ファイルの取扱いが変更になりました

- ・ レイヤー（カテゴリー、図化項目）と DGN V7 ファイルの要素との対応付けは、マッピングファイルで行います。
- ・ マッピングファイルは、プロジェクトフォルダ下の **Parameter** フォルダ内に置かれる **Dgn7Table.txt** です。（ファイル名固定）
- ・ **Dgn7Table.txt** の書式については、マニュアルの「データ変換解説書」をご覧ください。

## 3. シンボルファイルの形式が変わりました

- ・ シンボルファイルの形式が、拡張子 **.smb** に変わりました。（従来は **.sbl**）
- ・ シンボルファイルは DGN ファイルの共有セル、DWG ファイルのブロック要素をインポートして作成することができます。シンボルファイルへのインポートには「シンボル登録ツール」を使用します。シンボル登録ツールは、スタートメニューの[図化名人 **GE2**]から起動します。
- ・ 従来のシンボルファイル（拡張子 **.sbl**）から新しい形式のシンボルファイルへの変換には、シンボル登録ツールを使用します。

## 4. シードファイルはプロジェクトごとに保持します

- ・ シードファイルは、プロジェクトごとに保持するように変更されました。シードファイルは、プロジェクトフォルダ下の **Parameter** フォルダに、次のファイル名で保持されます。（SHP 形式や DM フォーマット、GEF 形式にはシードファイルはありません。）

Seed.dgn           (DGN V8 の場合)

Seed7.dgn          (DGN V7 の場合)

Seed.dwg           (DWG の場合)

- ・ プロジェクトのシードファイルが存在しない場合、アプリケーションは [C:\ProgramData\AAS\ZukaMeijin\GPDigitizer] に置かれているシードファイルをプロジェクトフォルダにコピーして使用します。

## 5. 旧プロジェクトの自動変換について

- ・ 図化名人 **GE ServiceRelease 2**、図化名人 **SA ServiceRelease 2**（DGN 版）で作成したプロジェクトを開くと、自動的に図化名人 **GE2/SA2** の形式に変換します。この変換処理で行われる内容は次の通りです。
  - (1) カテゴリーテーブルからレイヤーテーブル (**LayerTable.xml**) を自動的に作成します
  - (2) シンボル登録ツールを起動します

- (3) [登録]ボタンを押すと、画面に表示されたシンボルのうち、チェックボックスにチェックが入れられたシンボルが、新しい形式のシンボルファイル (symbol.smb) に登録されます。

#### 6. 外部レイヤーとは

- ・ 図化名人 GE2/SA2 から、外部レイヤーという概念が新たに導入されました。外部レイヤーとは、レイヤーテーブルや、DGN V7 用マッピングファイル等で定義されていない図化項目 (カテゴリー) を示します。(従来では、図化項目が「未定義」として取り扱われていました。)
- ・ レイヤーテーブルでは、外部レイヤーとして取り込まれたレイヤーには「\*」マークが表示されます。
- ・ 外部レイヤーは、色や線種、線幅といった表示設定情報を保存することができません。
- ・ 外部レイヤーは、レイヤーテーブルでの簡単な操作でレイヤーテーブルに登録することができます。

#### 7. 警告メッセージ「読み込まれたシンボルファイルは正しくない可能性があります。」が表示されるとき

- ・ シンボルファイルに登録されたシンボルをすべてチェックし、次のケースに該当する場合、表記のメッセージが表示されます。
  - (a) シンボルの存在範囲に(0, 0)が含まれず、その存在領域までの距離が 100m 以上ある場合
  - (b) シンボルの存在領域の幅、または高さが 1000m を超える場合
- ・ 上記に該当するシンボルを配置したとき、シンボルが正しく表示されない可能性があります。
- ・ このようなメッセージが表示されたときは、シンボル登録ツールを使用してシンボルファイルに登録されたシンボルを確認し、シンボルが正しく表示されているかどうか、確認してください。正しく表示されないシンボルがあった場合、それを削除することで、このメッセージが表示されなくなるかどうか、ご確認ください。

以上